

明治期の「音楽教育」について

沢 登 芙美子

The History of the Care and Education of Young Children in Yamanashi ; Notes (6)

'Music Education' in Meiji-Period

Fumiko SAWANOBORI

1. はじめに

保育史の中の「音楽」とは何かと考えるとき、まず、明治以来幼稚園や保育所等で行われてきた公教育の場での音楽教育がどのようなものであったかということであろう。つぎには子どもたちが生活の中で創造してきた音楽活動であろう。子どもたちが創造してきた音楽活動は、子どもの文化としての価値がある。したがって、子どもをとりまく音楽活動の様子を知るためには、この両面から捉えることが不可欠である。が、子どもたちが創造してきた音楽活動については、つぎの機会に述べることにしたい。本稿では、明治期の音楽教育がどのように考えられ、始められていったのかを取り上げる。

我が国初の幼稚園が開設されたのは明治9年の東京女子師範学校付属幼稚園であった。以来120年になろうとしている。このことは、音楽教育の歩んできた歴史も同じ年月を経たことになる。我が国ではじめてつくられた「唱歌」は、東京女子師範学校付属幼稚園で歌われた「保育唱歌」であったからである⁽¹⁾。

ところで我が国の音楽教育の問題点が論じられるとき、批判の対象のひとつは、明治期の音楽移入の方法に向けられる。今、音楽教育を考えると、

批判だけではなくこれまでの歴史の中で何が行われてきたか、問題点は何かを明かにして、改善すべき方法を検討しなければならないだろう。この研究ノートはその為の一次的資料となるよう願う。

山梨県の音楽教育がどのようなものであったかを検証する前に、まず、我が国が音楽教育をどのように始めていったかを認識することが不可欠であろう。そこで我が国が子どもの為につくった音楽とその背景を追う。その上で山梨県に取り入れられた音楽について述べたい。山梨県の音楽教育の資料として一番古いものは、現在のところ明治21年7月からの山梨師範学校附属小学校附属幼稚科の『保育室日誌』である。ここには「唱歌」と「唱歌遊戯」が記録されている。これらを基に、山梨県に於ける音楽教育の幕開けの響きを明らかにしたい。

2. 音楽教育創始期のころみ

音楽教育は、昭和16(1941)年4月、国民学校発足とともに芸能科音楽となり、器楽や鑑賞の指導がおこなわれるようになるまでは、明治5(1872)年の「学制」以来、小学校では唱歌科教育であった。音楽教育は唱歌科教育としてはじまったのである⁽²⁾。明治5年8月に頒布された学

制のときには、「当分之ヲ欠ク」という但書がついていた。以後数年間、文部省がこの但書をとるよう努力した形跡は、なにもない⁽³⁾。

当時何ら音楽の授業が行われていない状態を打破しようとして試みた一計画を「唱歌編製書類」にみることができる。

「この計画は、純日本音楽による音楽教育計画で、約一年間計画案をねり、式部寮に選譜(作曲)を依頼し、選譜完了をみたのであったが、計画をすすめていく過程で、いく分粗雑な面があった為、結果は「当分ノ内お見合セノ事」となり、この計画は実を結ばないでしまった。しかし、まだ音楽教育がほとんど行われていなかった時代に何らかの形で計画的に行おうとしたことや、特にそれが日本音楽(雅楽と俗楽を折衷したもの)を素材にして行おうとしたことを述べている点は注目される。」⁽⁴⁾

当時、文部省は諸外国の教育論を勢力的に紹介していたが……中略……これらの翻訳は、日本の学校教育を確立していくうえで参考にされたものとみていい。それをみていくと、愛国心の教育と女子教育に音楽を利用しようとする意見が目につく。……中略……女子教育に音楽を利用しようとする動きは、愛国心の教育より一足先にさかんになる⁽⁵⁾。明治9年、東京の昌平館でひらかれた第一大学区府県教育議会で、「男女ヲ教授スルニ方法自ラ別アルノ議」が論じられ、その一つとして、「唱歌奏楽ハ心情ヲ和ケ柔順ヲ旨トスルヲ似テ女子ニ於テ欠ク可ラザル科トス」とされた⁽⁶⁾。翌年、女子では地理や歴史の授業をへらしても唱歌音楽を教えるのがよいと具体的な提案をおこなっていた⁽⁷⁾。

「京都女学校では、明治11年11月に『唱歌』という教科書を出版し、伴奏楽器として筑紫箏をつかって唱歌教育をはじめた。当時流行していた卑猥な歌をただ禁止するのではなく、在来地唄の曲をそのままつかい、歌詞を教育的に改良して生徒にうたわせようという方針であった。これらの歌をみると、唱歌音楽がとくに女子の徳育の手段として有効なものとしてみていたことが分かる。」⁽⁸⁾

学校唱歌がまだなく、京都女学校のように楽器を使うこともできないとき、教師たちは替え唄でいく以外なかった。たとえば明治14年頃ごろ、岡山県のある教師は、手まり唄の歌詞をつぎのようにかえている。

「およそ子どもの務というは 朝は早おき手水をつかひ

神にむかひて一礼なして 次に父母目上の人の 朝の機嫌をききたるのちに ゆふべさらへし手本や本の うちを見分けて今日入物を しゃんとつつみて名札をそへて 姉は妹に弟は兄に 心つけつつ学校へいでて 教場教場へしづかに入りて 教師教師の教えをうけて 勉強するのが重要なるぞ いつも此事わするるなよ わするるなよ〜」

これが一番で、以下に孝行娘や、子どもはどんな障害があっても勉強しなければならないとうたわれていく。……中略……10年以上たってからこの歌を紹介した人は、「生徒は之ヲ好ミ父兄モ喜ビ遂ニ一時ハ子守モ歌フニ到リ」といっているが⁽⁹⁾、これは教訓歌であっても、子どもの遊びとむすびついていたうえに、子どもたちの中から生まれた旋律だったのだから、子どもたちに喜んで受け入れられたであろう。

唱歌を徳育の手段とするのではなく、子どもの成長にとっての音楽固有の意義をみとめて教育をはじめていたのは伊沢修二であった⁽¹⁰⁾。彼は、明治7年に愛知師範学校の校長に就任し、「将来学術進歩ニ付須要ノ件」として「唱歌遊戯ヲ興スノ件」を文部省に提出している⁽¹¹⁾。伊沢は明治6年に大学南校時代の教師フレベリッキから送られた『児童論』を読み、フレーベルが、幼児の自己活動を重視しており、そのためには「唱歌遊戯」が幼児教育に必要な科目であることを知った⁽¹²⁾。そこで「愛知師範学校年報」にも、唱歌の必要性を記して唱歌と運動は教育上ともに必要で、筋骨の弱い幼少期には激しい体操よりも、遊戯唱歌による教育が望ましいとし、実践をこころみている⁽¹³⁾。伊沢のこころみは、「今、我輩、西洋に於て著名なる教育士、フレーベル氏、其他、諸氏の論説に従ひ、先、本邦固有の童謡を折衷して二、三の小謡を製し……」とあるように、西洋の教育論を学んだうえで、日本の童謡を基に、遊戯つきの唱歌をつくらうとするものであった。その例は、「胡蝶」「椿」「鼠」等である。これらは、歌詞を少し変え、曲はわらべ歌を用いて、これに遊戯を加えたものであった⁽¹⁴⁾。実際に子どもたちが歌っている唄を基にして行ったこころみは、フレーベルの自己活動を重視しなければならないという考えにそったものだったのではないだろうか。

3. 東京女子師範学校附属幼稚園の遊戯唱歌

伊沢の下等小学校における唱歌教育以外の幼児

音楽教育の実態を知ることができるのは、明治9年に開設された我が国初の幼稚園である東京女子師範学校附属幼稚園になる。ここで子どもたちがうたった歌は、同幼稚園が宮内省式部寮雅楽課に作曲を依頼した『保育唱歌』といわれているものである。これは幼稚園唱歌としてのひとつの出発点と考えられる。この時期は、伊沢修二が米国に留学中の時であり、音楽取調掛が設置される以前のことである。

幼稚園の創設は、フレーベルのキンダーガルテンが我が国に紹介され、それを研究、理解することから具体化しているのでその内容は全てフレーベルシステムによるものであった。

唱歌や遊戯もやはり参考とした案内書から翻訳したものをとりあげているが、曲の方は翻訳というわけにいかず、五線譜の曲をそのまま幼児たちにうたわせることもできなかった。明治5年に学制が施かれて教科の中に「唱歌」がはいっても「当分之ヲクク」という状態がこのころにもまだつづいていたのである。……中略……曲については、当時の式部寮雅楽課の伶人たちに作曲を依頼することになったのである。……中略……次々とすすめられた伶人たちの作曲による唱歌を「保育唱歌」といった⁽¹⁵⁾。

保育唱歌は100曲余りあり、東京女子師範学校の生徒と附属幼稚園児と保姆を対象に作られたものであって、園児のためばかりではなかったということである。伊吹山真帆子は論文「保育唱歌」で唱歌の音楽分析を行い、日本で初めて出版された西洋音階による唱歌集『A. L. Howe: 幼稚園唱歌集』を対照例にあげ、音楽上の共通点が見い出せないことを述べている⁽¹⁶⁾。

幼稚園で歌われた歌は33曲(100曲中)で幼児向きに工夫がされている。歌詞は幼稚園で選定したものが大部分(33曲中28曲)を占め、これらに付いている歌詞はさほどむずかしくはない。古典を出展とする歌に曲をつけたのは4曲(46曲中)だけとなっていることから幼稚園ではむずかしい歌詞を持つ曲は極力避けたことがわかる。雅楽の音価は『A. L. Howe: 幼稚園唱歌集』に比べて平均音価が倍近く長いうえに、動きも単調になりやすいが、幼稚園では一番単調な五声早四拍子の曲は『冬燕居』がつかわれただけである⁽¹⁷⁾。

東京女子師範学校附属幼稚園で歌った「保育唱歌」の唱歌と唱歌遊戯⁽¹⁸⁾はおおよそ次のようであった。

(1) 歌詞、および内容

- ・多くは東京女子師範学校附属幼稚園保姆、豊田

英雄、近藤^{はま}浜の作詞。幼稚園、豊田英雄の訳詩など。

- ・万葉集、古今集、拾遺集などから選んだもの。次に例を示す。

①子どもの身近な四季の現象や動物に関する歌。

「家鳩」幼稚園訳 平調律旋 歩拍子 譜例1

「風車」幼稚園訳 宍越調 歩拍子 譜例2・3

「秋の日影」幼稚園訳 平調律旋 早4拍子
つゆしにも こすえはいろに いてにけり〜

②幼稚園の生活に関する歌。

「六の球」豊田英雄作 平調律旋 早4拍子

開誘歌(二十恩物中第一の「六球」を唱歌にしたもの)

むつのたま いともてつくり そのいろは をなじ
かずほど ありとこそしれ〜

③遊戯の歌。

「盲想」(めしひのあそび) 豊田英雄訳 平調律旋 歩拍子⁽¹⁹⁾

うたまひに たちつどひたる たはふれの めしひ
の きみよ〜

譜例1

「家鳩」

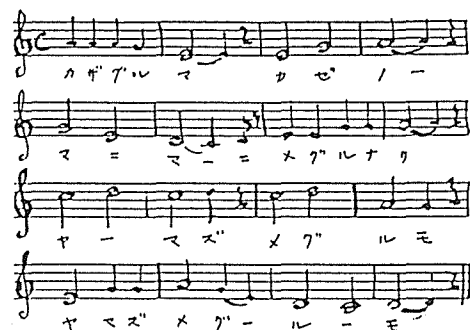
中村道子氏の採譜による



譜例2

「風車」

芝祐泰編 五線譜による



譜例 4 旋法

宮 商 角 徴 羽 翹 類

宮 商 角 徴 羽 翹 類

毫越調	律旋		呂旋	
平調	律旋		呂旋	
雙調	律旋		呂旋	
黄鐘調	律旋		呂旋	
盤涉調	律旋			

図表 1 保育唱歌の拍子

歩拍子	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
早4拍子	○ ○ ○ 百 ○ ○ ○ 百 ○
閑4拍子	○ ● ○ ● ○ ● 百 ● ○ ●
閑5拍子	○ ● ○ ● ○ ● ○ ● 百 ● ○
備 考	「○」は笏拍子の打たれる所を示す。

譜例 5

「河水」

「春ノ山辺」

譜例 4、5、図表 I は久保正美「日本民俗音楽学会1993 口答発表資料」より転載

歌詞の意味は幼児に分からない文語体、メロディーは音価の長いゆったりした雅楽調のこれらの唱歌は、子どもたちにどのように受けとられていたのだろうか。当時の保姆練習生のひとりには「其旋律は長く優美に歌詞は雅言多く幼児には其意味を解し兼ねるもの」であったと回顧している⁽²⁴⁾。歌詞の意味が幼児にわかりにくいものだというのは、さきにあげた例からも分かるが、旋律が「長く優美」であるというのも、幼児にはふさわしくないものであっただろう。雅楽による教育は、この幼稚園が規範としたフレーベルの教育原理と相反する方法であった。フレーベルの教育が、子どもの外から働きかけるのではなく、子どもの内からわきあがる自己活動を重視していたことからすると、雅楽による教育は矛盾していることになる。

『保育唱歌』は刊行されなかったが、我が国で最初に作られた唱歌集として、注目される。この後出版された『小学唱歌集』『幼稚園唱歌集』への移行とともに、「風車」「民草」「家鳩」などいくつか『唱歌集』に残された他は歌われなくなっていった。しかし、学校より先に幼稚園で唱歌教育が行われたこと、また音楽教育が行われていない状態の中で、これらの唱歌をつくり、実践した保姆と雅楽寮伶人の努力と実績は大きい。

ところで明治31年に山梨県初の私立幼稚園である進徳幼稚園を設立した進藤津らは、県から優秀な生徒として選ばれて、明治9年1月から明治14年2月まで東京女子師範学校で学んでいる⁽²⁵⁾。この期間は東京女子師範学校が「保育唱歌」に熱心に取り組んだ時期であることから、進藤津らも幾つかの「保育唱歌」を歌ったことであろう。このことは後に進藤が勤務した山梨県師範学校（明治14年3月）山梨女学校（明治14年8月）、山梨県師範学校附属幼稚園（明治30年4月）の唱歌教育に反映したものとみていいだろう。

4. 『小学唱歌集』

文部省音楽取調掛⁽²⁶⁾編纂による日本で最初に刊行された唱歌集で、次の三冊からなる。

小学唱歌集 初編（明治14年11月刊行）

小学唱歌集 第二編（明治16年3月刊行）

小学唱歌集 第三編（明治17年3月刊行）

この唱歌集の初編のはじめには、数字1 2 3 4 5 6 7（ドレミファソラシ）をヒフミヨイムナヒと読ませた音階の基礎練習が掲載されているが、他は91曲からなる唱歌教材集である。「日本幼稚園史」によると、幼稚園では初編のみを用いたという⁽²⁷⁾。

この唱歌集の多くは、メーソンがアメリカの学校で行われている曲を選曲している。それは、スコットランドやアイルランドの民謡等が中心であった。これらの曲に稲垣千穎、里美義、加部敏夫等国文学者が歌詞を作った。そのなかには「蝶々」（スペイン民謡）、「蛍」（蛍の光、スコットランド民謡）、「以上初編」、「霞か雲か」（ドイツ民謡）、「二編」、「あおげば尊し」（スコットランド民謡）、「才女」（アニーローリー、スコットランド民謡）、「菊」（庭の千草、アイルランド民謡）、など、人々に歌い継がれてきた歌がある。

『小学唱歌集』は、わが国最初の音楽教科書としては実に系統的につくられ、特に段階的である（メーソンや伊沢の唱歌教育は、ベスタロッツ教育法の影響を多分にうけていた。彼が児童の自然の本性を開発するためには、秩序立った段階が必要だとしたことや、直感を重んじ実物教授を重視したことが、音楽教育上でも実践に移されていた。そのために、基礎練習を十分に行い、リズム練習、音階音程練習を積んで歌曲に入るという、秩序立った学習のやり方が行われたのである。）この唱歌集ができるまでには、メーソンや伊沢をはじめ音楽取調掛員の並々な努力があった。掛員により日本の伝統音楽を取調べる一方、新曲を作り、できた曲をメーソンや助教たちが児童に教え、その結果を見て訂正したり取捨選択して作りあげたのである⁽²⁸⁾。

『小学唱歌集』は、東西両洋の音楽を折衷し、「国楽を創成する」という方針で編纂が進められた。しかし、このことに関してメーソンと伊沢の間に意見のくい違いがあった。山住正巳は「唱歌教育成立過程の研究」の中で綿密な調査をおこなっている。その一部を引用する。

「メーソン宛の伊沢の手紙によると、「……われわれの目標はヨーロッパ乃至はアメリカの音楽をそのまま採用することではなく、新しい日本の音楽を創り出すことでございます。」と、……中略……アマチュアとして音楽を楽しむばあいには外国の曲をそのまま聞いてもいいかもしれないが、といって、教育の問題をとりあげている。「……一国の教育の一部門として音楽を扱おうとする時には問題は全く

異なっており、外国より輸入された音曲は多少なりともこちらになじんだものにしなければなりません。歌は自国語に変える必要があります。……中略……メロディーもある場合には殊に二つの国語が全然違った系統に属しているというような場合には手加減をしなければならぬというようなことが生じて参ります。なぜならば二つの言葉で或る一定のメロディーによらなければならぬ場合にアクセントや強勢をつけることが全く不可能であるからです。」

伊沢は西洋音楽をそのままとり入れるのではなく、日本人に適したものにしなければならぬと考え、メーソンに協力を依頼したのだが、この手紙によると、メーソンは十分にこれにこたえようとはしなかったようだ。」

伊沢は東西両洋の音楽の差異を感じながらもそれを理論的に明確化するまでには至らなかった。それよりも、早急に唱歌教育をはじめするために、何とか類似点を発見しようとしたようである。それは、雅楽の「律」と「呂」を、それぞれ自然短音階と長音階に比較するなどして、「大体同ジキ」ものとした。この類似の面を強調して編集をすすめた伊沢の「理論」はその後、日本の唱歌教育に強い影響を与えることになった。

このような状況のなかで進められた東西両洋の音楽の折衷の音楽は、伝統音楽からは主として雅楽風な音楽がとりあげられ、身近なわらべうたや民謡がとり入れられなかったことは残念である。雅楽の旋律は明治の終り頃にはほとんど歌われなかったという。一方外国曲のものは古くから親しまれている外国のわらべうたや民謡、さらには聖歌からとったもので、選曲の良さからか歌い継がれているものがある。編纂は東西両洋の音楽の折衷の方針の他に、もう一つの方針である「雅」をとり「俗」を捨てることにあったことは残念である。

歌詞は文語、雅語による作詞が大部分であり、子どもたちには難解なものが多い。このことは、明治30年代になり、田村寅蔵を中心とした言文一致の運動が大きな支持を得ることになったのだが、当然な動きといえよう。

「最初の教科書となった『小学唱歌集』が、日本の音楽教育を形づくる出発点として、最も大きな役割を果たしたといっても過言ではない。明治中期以降にわたって「学校唱歌、校門を出ず」は日本の唱歌教育に対する気持ちをよくあらわし

ているが、こうした学校唱歌を形づくり影響を与えたのもこの唱歌集であった。」⁽²⁹⁾

以下『小学唱歌集 初編』の中から山梨県師範学校附属幼稚科で歌われた唱歌の簡単な解説をする。⁽³⁰⁾

第十三 「見わたせば」

「見わたせば あおやなぎ 花桜 こきまぜて〜」この歌は現在も幼稚園や保育園で歌われている「むすんでひらいて」と同じ旋律。ルソー (J. J. Rousseau) の作曲ともいわれている。我が国では明治15年以前に讃美歌として歌われていたという。歌詞は柴田清熙。

第十七 「蝶々」

伊沢修二が愛知師範学校でおこなった唱歌遊戯「胡蝶」の歌詞が一歌になっている。旋律はスペイン民謡。

第二十 「螢」

『螢の光』として現在は二歌まで歌われている。この唱歌集は四歌までである。原曲はスコットランド民謡『久しき昔』(Auld lang syne)で告別の歌。この曲が最初に歌われたのは明治14年5月24日、皇后陛下東京女子師範学校行啓の際演奏された。邦語歌詞は稲垣千穎、里美義、加部敬夫のうちの誰かといわれている。

第二十二 「若紫」

曲はスイスのネグリー作。作詞稲垣千穎。

第二十三 「君が代」

天皇治世を祝う歌。一歌は『古今集』二歌は源頼政の作。両首に稲垣千穎が補足した。曲はイギリスのウェブ作に少し取捨を加えた。式典で歌われる「君が代」とは別の曲。

5. 『幼稚園唱歌集』

『小学唱歌集』に次いで明治20年に『幼稚園唱歌集』が文部省音楽取調掛によって編纂された。

『日本幼稚園史』によると、「これに掲載されている唱歌は、主として、女子師範学校附属幼稚園でつくられたものであって、これに音楽取調掛が手を加へたものである。」という。明治16、17年頃にはできていたようで、女子師範学校附属幼稚園では刊行以前にこれらのうたを歌っていたという。

緒言(明治16年)としてこの本の趣旨が記されている。

(1)この本は子どもたちが嬉遊温和のさいに、自ら幼徳を養い幼智を開発させるために用いる歌曲を集めたもので、(2)唱歌は幼児の性情を養い発声法を学ぶ大切なもので幼稚園で欠くことはできない。園戯も音楽によって効果があがる。

(3)唱歌は殊に拍子と調子に注意すべきで、(4)箏・胡弓・洋琴・風琴のような楽器にあわせて歌い幼心を感動させるのがよい、と。以上の4項目が述べられている。音楽によって徳育を養うことを第一に考えていたことは、『小学唱歌集』と同じである。「心は猛く」「進め進め」「学べよ」「真直に立てよ」など道徳的情操の陶冶に資する歌が多く、幼児の心情にあった身近な生活の歌は数少ない。歌詞も文語調であるから、幼児には理解しにくかったにちがいない。歌詞の内容も子どもの年齢や発達段階、興味や理解度など、子ども側に立っての配慮は余りされていない⁽³¹⁾。

選曲、作詞、作曲などについては、『小学唱歌集』同様、外国曲が多くとりいれられ、ほとんどがへ長調と、ト長調である。作詞は取調掛が行っているものが多い。その他に取調掛で新作したものが収められている。しかし拍子において八分の六拍子の曲が5曲とりいれられていることは、『小学唱歌集 初編』との違いである。

『幼稚園唱歌集』刊行は幼稚園関係者にとって非常な喜びで、まもなく諸地方の幼稚園で用いられるようになった。しかし、その後これに代る他の唱歌が次々と出版されてくると、ほとんど用いられなくなり、この書も段々と失われてゆくのであった。⁽³²⁾

以下『幼稚園唱歌集』の中から山梨県師範学校附属幼稚園で歌われた唱歌の簡単な解説をする。

第三 「進め 進め」

加部厳夫作詞。曲は米国の子どもの歌 (Children go to and fro) で、列をなし歩行し相唱和して歌う行進の曲。この曲は後に「すずめ すずめ お宿はどこだ」の童謡歌詞がついて愛唱された。

第四 「霞か雲か」

『小学唱歌集 第二編』と同じ。加部厳夫作詞。曲はドイツ民謡『春の訪れ』(Frühlings Ankunft)。

第十五 「花咲く春」

作詞、作曲伊沢修二。うぐいすの鳴き声(ホーホケキョ)を曲のなかでくつかえしうたいあげ、花の咲き匂う春の曙の情景を描いている。伊沢修二の曲には擬声語がつかわれたり、言葉のもつ響きやリズムの楽しさを表現したものである。『子供 子供』(エンヤラホホホ)等。

第十六 「やよ花櫻」

作詞不詳。曲はドイツの歌曲集『アルト・ハイデンベルク』にある学生歌 (Trinkspruch)。

第二十 「ここなる門」

第一、第二歌は、加部厳夫作詞。第三、第四歌は、東京

女子師範学校附属幼稚園、豊田芙雄。作曲者不詳。二人の子どもが両手をつなぎ門をつくり、皆で歌いながらこの門をくぐっていく遊戯。

第二十一 「うずまく水」

作詞不詳。フランスの古歌が原形。ドイツでも古くから童謡になっている。ABCDの文字で歌うことは各国でなされている。日本では『きらきら星』として愛唱されている。

第二十六 「風車」

『保育唱歌』にある歌と同じ。雅楽の旋律に西洋の唱歌の形式とリズムを用いている。

第二十九 「数へ歌」

東京付近で江戸時代から歌われていた「わらべうた」といわれている。歌詞は江戸時代から「一つとや ひと夜あればにぎやかで〜」という年中行事の文句が広く歌われていたが、編纂されるときに教訓的な歌詞に変えられたものと思われる。作詞者については記録がない。この歌は『保育唱歌』にもとりいれられ、次のような歌詞になった「一つとせ 人は心が第一よ 第一よ みがいてをさめて 世を渡れ 世を渡れ〜」その後、時代の要求を反映し、幾度も変えられて登場してくる。『小学唱歌 一』(明治25年3月)「一つとや 人と生まれて 忠孝を 忠孝を かきて皇国の人でなし 人でなし〜」。『尋常小学読本唱歌』(明治43年7月)「一つとや 人と忠義を第一に 第一に あふげや高き君の恩 国の恩〜」。『初等科音楽 二』(昭和17年)「一つとや ひとりで 早起き身を清め 身を清め 日の出を拜んで 庭はいて 水まいて〜」(山梨県生、山梨師範学校卒業の権藤花代作詞)等である。

これらの『唱歌』は子どもたちにどのように受けとられていたのだろうか。当時の保育現場の様子の一つとして樋口長市の論説「幼稚園唱歌につきて疑のふしぶし」(明治33年4月)⁽³³⁾にみることができる。この論説にでてくる「唱歌」は『幼稚園唱歌集』刊行後に出された唱歌も含まれていると思われる。

歌詞については、同じ音の言葉が繰り返されるアリタレーションは児童の最も好むところであるとして、「……今日の唱歌集に之に適して居るもの幾何かある、……中略……今日の幼稚園唱歌を児童の心理の上に打ち建てんとならば、改作すべきものがまだ多くあると、……中略……児童日常の活語ではなく、死語古典学者の詞から出来ているものが多い……中略……今日の幼稚園で用いている唱歌は多くは国学者の唱歌である。大人の唱歌である。……中略……伊沢先生の作歌で、小学唱歌中にあるものはよきものが多くある。からすからすでもかりかりでも皆其例である。

今日私が日常見聞致して居るところでは、「すずめすずめ」「かわいやおとめ」「椿や椿や」「祇鷺」「開いた開いた」などが一番多く行われて、又児童の最も好むところであります。また歌の意味の上より、児童の経験に遠きこととして「……其れ意味するところが児童の経験に遙かに隔たりている、……中略……理解せしむることも想像することも出来ずして、如何でか唱歌の大主眼たる心情の陶冶をすることが出来ましょか。」楽譜につきてとして「童謡（わらべうた）などの曲は極短くしてアリタレーションの如く同じ曲がくりかへしているということと、又児童は高音部を好んでいる。大人が聞いて美とする低音部などは彼等は牛の様な声だと言うて嫌ふのと、また其歌曲の高低の範囲が狭いということである。……中略……其歌曲が児童に適しない為に、とんと児童の興味を惹きおこさない、今日の幼稚園唱歌の譜は音楽者の譜である、児童の譜でない。」と述べている。更に言葉に「雅」と「俗」についてふれ、歌は感情が土台となり言葉によってそれを発表するのだからとして、「……中略……言葉を児童に分かり易き様となれば勢い俗言にながれて言葉の品が悪くなると其本末を転倒して居る。」

と論じ、形ばかりを整えて、子どもの表現の欲求を軽視していることの考察を行っている。

以上音楽教育創始期の様子から『幼稚園唱歌集』が刊行され、幼稚園で用いられた様子までみてきた。音楽教育が皆無の時代に多くの矛盾を抱えながらも並々ならぬ努力によって唱歌が生まれてきたことが分かった。

6. 山梨師範学校附属小学校附属幼稚科の音楽教育

さて、ここまでみてきた唱歌が、山梨県ではどのようにとり入れられたのであろう。山梨県に於てこれらの唱歌がはじめて歌われたのは、山梨尋常師範学校附属小学校附属幼稚科（幼稚科は後に独立して山梨師範学校附属幼稚園となる）であろう。それは明治21年4月から記録されている附属幼稚科の『保育室日誌』に見ることができる。この日誌に唱歌が初めて記録されたのは、明治21年6月4日の唱歌科の欄に「復習ヲナス」とあるものである。「復習ヲナス」とあることは、この日より以前に何らかの唱歌が歌われていたということであろう。また遊戯科が初めて記録されたのは同年9月5日「戸外で自由に遊戯シム」とあり翌6日は「室内ニテ民草、風車及び蝶々ノ遊戯ヲナス」

とある。この保育日誌から保育の様子が分かることは幾つかある。まず、附属幼稚科で歌われた唱歌のほとんどは明治20年に刊行された『幼稚園唱歌集』からとり入れられている。記録されている明治21年7月、9月というのは唱歌が普及されているとは思えない時期である。そのような中で7月には8曲の唱歌が歌われている。現在のところどのような経歴をもった教師が教えていたのかは分からないが、西洋音楽になじみの無い時代に、これらの歌を教えるためには相当な努力をされたことであろう。では教授法はどんなだったのかと想像する手がかりとして、唱歌科の記録を見ると、唱歌の歌詞が少しずつ書かれていることや「飛び来るとんぼの一段を教え」や「数へうた」などは「三つとやの半分まで」となっていることから「口授法」といういわゆる「口移し」の方法をとっていたのではないと思われる。これはまず先生が歌って模範を示し、歌がわかってから一節ずつ範唱に続いて模唱をするという方法で、当時の一般的な指導方法だったようである⁽³⁴⁾。また儀式唱歌である「天長節」「紀元節」「蛍の光」等は儀式的の前に幾度も歌われている。

つぎの表は山梨尋常師範学校附属小学校附属幼稚科で行われた唱歌教育の記録によるものである。『保育室日誌』記録の方法は歌詞の一部であることが多いため、『唱歌』の歌詞と照合しながら曲目を探す手順で進めた。しかし中には不詳のものが少しある。使用された楽器については、これまでに収集した資料の中には見つからなかった。わずかにある資料の一つとして、『音楽教育成立への軌跡』に見ることができる。それによると、山梨師範学校は明治16年と20年に取調掛に風琴を一台ずつ注文している⁽³⁵⁾。この資料によると、師範学校にはオルガンがあったであろうことが想像される。このオルガンが幼稚園で使用されたかは分からないが、『進徳幼稚園90周年記念誌』の「師範学校附属幼稚園から受継いだもの」として「オルガン（外国製）」が含まれている。これによると、オルガンは使用されていたことになる。他の楽器については現在のところ資料がない。

山梨師範学校附属幼稚科保育日誌による唱歌と遊戯

明治・年・月	唱 歌	遊 戯 唱 歌
21. 7	霞か雲か★(二編)※ やよ花桜※	
9	軍歌(三千余萬)・蝶々 皇御国★(二編)・数へ歌※ 学べよ※・進め進め※	蝶々★※ 民草▽ 風車※▽
22. 3	飛び来るとんぼ	ここなる門※・鳩
24. 4	蝶々・風車 乙組 霞か雲か 数へ歌(5ツマテ)	マーチ(直進門進) かごめ・民草 操練※
5	織りなす錦◇ 君が代★・蛍の光★ 数へ歌(9ツマテ) 来てみよ君よ	めしひのあそび▽ 民草
6	学べよ・大原女※ 織りなす錦	
7	花さく春※・春のやよい★	
9	春のやよい・進め進め 君が代・君が代の初春 軍歌・皇御国 天長節・織りなす錦	民草・蝶々 かごめ めしひのあそび ここなる門
10	天長節・皇御国・軍歌 花さく春・織りなす錦 進め進め・霞か雲か 数へ歌・風車・学べよ 友どち※	ここなる門 民草 窮鼠▽ めしひのあそび マーチ・蝶々 一羽の鳥
11	若紫★・友どち・風車 窮鼠・天長節・皇御国 子供・霞か雲か・軍歌 花さく春・織りなす錦 めしひのあそび・蝶々 君が代の初春・学べよ	
12	若紫・燕(つばくらめ)※ やよ花桜※・数へ歌 春のやよい・君が代 蛍の光・軍歌・皇御国 来てみよ君よ・蝶々 隅田川・進め進め 蛍の光・霞か雲か (以下は主な指導唱歌)	民草 うずまく水※ ここなる門
25. 1	やよ花桜 紀元節△(一)	(12月まで行った遊戯) めしひのあそび
2	紀元節・蛍の光	猫と鼠・家鳩▽
4	蝶々・霞か雲か	ここなる門
5	数へ歌(毎日少しずつ)全曲	うずまく水
6	花さく春・うずまく水 子供子供※△・友どち	ボルネード マーチ
7	かり△(一)・からす△(一) あり△(一)	民草・蝶々 かり・風車
10	我日本△(三)	かごめ
12	君が代の初春	

——は重点指導(繰返し幾度も指導していた歌)

※「幼稚園唱歌集」★「小学唱歌集 初編」▽「保育唱歌」

◇「中等唱歌」△「小学唱歌」(明治25年伊沢修二)

7. おわりに

山梨県保育史の音楽はまだやっと入口に立ったばかりである。当初本稿では山梨師範学校附属幼稚園に続く進徳幼稚園の保育日誌も取り上げる予定であったが、紙面の関係からつぎの機会になった。これまでみてきたことからだけでも、教育において幾つかの問題点が考えられるが、これらは今後の課題としたい。

本研究を進めるにあたり、多くの方々に資料を提供して頂いた。ここに深く感謝を申し上げる次第である。

最後に附属幼稚科で使用した唱歌の楽譜の一部を掲載した⁽³⁶⁾。

注

- (1) 我国初の幼稚園の開設についての状況は、上笙一郎 山崎朋子『日本の幼稚園』1965年 理論社。倉橋惣三 新庄よしこ『日本幼稚園史』昭和9年 東洋図書。外山友子「幼稚園唱歌事始」昭和52年 東洋音楽研究43号。稲田嶺一郎「わが国における幼児音楽教育の歴史的考察」美作女子短期大学紀要 第13号 第25号参照 1980
- (2) 山住正巳『唱歌教育成立過程の研究』P.3 東京大学出版会 1991
- (3) 同前書 P.13
- (4) 沢崎真彦「明治初期の日本音楽における唱歌教育計画」音楽教育研究 No.35 P.33 昭和44年
「唱歌編製書類」は明治12、13年頃東京府において開かれた教育会議で決議された唱歌教育に関する一計画である。
- (5) 『唱歌教育成立過程の研究』P.13
- (6) 文部省『教育雑誌』第六号付録 明治9年6月9日刊
- (7) 西村茂樹「第二大学区巡視功程」『文部省第四年報』明治9年 上巻付録
- (8) 『唱歌教育成立過程の研究』P.15
- (9) この替え唄は明治14年大島一雄がつくったものだという『教育評論』第四四号 明治25年4月
- (10) 伊沢修二(1851-1917)長野県出身、東京音楽学校の前身である音楽取調掛設立にあたっての中心的人物。明治7年、24歳で愛知師範学校長に就任。
- (11) 「愛知師範学校年報」(明治8年『文部省第二年報』)
- (12) 伊沢修二「幼児に課する唱歌遊戯の話」『婦人と子ども』第一巻 第一号 P.61 明治34年

(13) 愛知師範附属小学校の下等小学においてはじめて唱歌と遊戯を教えたという。後年『婦人と子ども』（明治34年1月）に寄稿した回想録の中で「下等小学と云うのは、丁度、今で申すと、尋常1、2、3年に当たりますが、この時代には、まだ、幼稚園の数がなかった故、最下級には学年未満のものをも入れ、今日の幼稚園如き仕事もしたことです。」と述べている。山住正巳の『唱歌教育成立過程の研究』によると、附属幼稚園ではじめての指導とあるが、まだ幼稚園設立以前であるので、この回想録にあるように幼稚園に類似したものか、同校の低学年をあつめて遊戯唱歌をおこなったとみてよいだろう。

(14) 小林恵子「小学唱歌集 初編 解説」『明治保育文献集』第三巻 P. 85 昭和52年

『楽石自伝教界周遊前記』明治45年の伊沢の述べたことを引用して「……今日全国にうたわれる蝶々の歌の詞は、まったくこのときにできたのであった。当時師範学校の教員に野村秋足^{あきたり}という有名な国学者がおった。余はこの野村氏に命じ、なにかこの地方におもしろい童謡があれば採用したいからと捜させた。そこで野村氏は、蝶々の童謡をとり、その下半分、すなわち『菜の葉にあいたら』の下をかえて今日あるごときものとし、また『開いた開いた』も多少改作して、これまた今日あるごときものとし、このほかに『古事記』の鼠の遊びを歌にしたものもあったが、これは今日あまり伝わらない。こうして、当時歌詞をば多少かえたが、曲をば童謡そのままに採用し、これに遊戯を加えて実行した。」とある。蝶々のわらべ歌について北原白秋編『日本童謡集成』昭和24年 国民図書刊行会の動物植物編にはこの歌が全国的にあり、歌詞はいろいろあるが、だいたいおなじようなものであることが記述されている。酒正保『群馬のわらべうた』音楽の友社 昭和46年には楽譜つきで「ちょちょべっこ……菜の葉があきたら れんげにとまれ」がある。

後に「蝶々」の原歌となる「胡蝶」の歌詞は下記である。

蝶々蝶々。菜ノ葉ニ止マレ。菜ノ葉ニ飽タラ。
桜ニ遊ベ。桜ノ花ノ。栄ユル御代ニ。止レヤ遊ベ。
遊ベヤ 止レ。

(15) 外山友子「幼稚園唱歌事始」P. 2、3

「東京女子師範学校第三年報」（『文部省第五年報』明治10年に所収）文部省に「緊急ノ校務ニ関スル意見」として以下のように報告されている。「唱歌は緊要ノ一教科ニシテ女子ノ教育ト幼稚園幼稚ノ保育ニ至リテハ殊ニ諸教科中ノ貴重ナルモノナリ 然ルニ本邦諸学校ニ於テ未ダ此教科ヲ設ケアルヲ聞カズ 実ニ一大決典ト云フベシ 本校ハヤクニ此

教科ノ設ケアルニ見アリ 因テ式部寮ノ伶官ニ囑託シテ歌曲ヲ選成セシメ先ズコレヲ幼稚園幼稚ノ遊嬉ニ用ヒ次テ本校生徒ノ正課ニ充テントス」この報告に歌曲とあるのが「保育唱歌」で墨譜で書かれた唱歌集だった。

この頃の様子は、倉橋惣三 新庄よしこ「日本幼稚園史」昭和9年 東洋図書に見ることができる。その一部を引用する。「唱歌の皆無と云う状態であったから、豊田、近藤両氏等が歌を作り、之を宮内省式部寮の人に作曲をしてもらひ、一つの唱歌が出来上がったのである。すると、是れを保姆一同が雅楽寮の伶人先生に教授を受けて、自分のものとして歌えるようにして、それから始めて保育用にしたのであって、是の状態が明治13年伊沢氏の帰朝頃までつづいたわけである。……中略……当時の唱歌、即ち保姆諸氏創作の唱歌が、単に幼稚園の幼稚園唱歌の先鞭をつけたというばかりでは無く、後に一般学校に於ける唱歌教育の基礎となったことである。曲のもつ雅楽調は、そのころの幼稚園をそのまま見るの感がある。五六歳の幼児がたがひに手をつなぎ合って輪を作り、唱歌を歌う有様は、当時にとって、新しくもまた珍しい光景でさぞ人々の心を惹いたことであらう。」P. 232、233

(16) 伊吹山真帆子「保育唱歌」昭和53年 東洋音楽研究44号 P. 23「明治の初期、洋楽を取り入れたのは軍楽隊のみ、教会では教会音楽だけしか聞かれなかったのに比し、雅楽課では宮中の外国使臣への餐応のため、吹奏楽、弦楽、ピアノ、歌など広範囲に渡る西洋音楽を研究し、修得していた。……中略……当時の伶人達が積極的に洋楽を勉強していたにしても洋楽の記譜法と音階を使った選譜にまでは取り入れることができなかったのかもしれない。」

(17) 同上「保育唱歌」P. 22、23

(18) 倉橋惣三 新庄よしこ『日本幼稚園史』P. 234

当時の保姆であった人の手記の記録を引用によると、「唱歌と遊戯とは後世は材料も豊富になって、別途の発達をして居るが、当初に於ては相併行する程のものでなく、唱歌の音調につれて軽い動作をする程度であるから唱歌の中に其れを含むものとす。」とあるように、遊戯の方ではとりたてて述べる程のことも無かったのである。動作に表わし易い歌詞の場合に、その表現をしたというにすぎないのであった。

(19) 日本のわらべうた「かごめかごめ」「中の中の小坊主」のような人当て遊び

(20) 幼児が手をつないで環をつくる。これが鳩の巢になる。鳩になる子は二三人別にきめる。はじめ鳩は巢の中にはいつて居るが、「すのとひらきて」でつな

第七

第五

第七 友どしり

一 友どしりきたま。わさらのども
こくきあれ。さやう。
やまにゆき。あそびて。
うたをうたひて。ゆきて。
なごをこま。ごまに。
二 ひどききたま。さく来よ
いざ。さく。いざ。さく。
人のみちをまよひて。
進を。さく。いざ。さく。
いともわさ。ごまに。

第五 花さくばる

花さくばるのあけがのど。
もやこくおれて。さく。
なくく。いす。さく。
人のみちをまよひて。
ホーホケキヨ。ホーホケキヨ。ホーホケキヨ。
ケキヨ。ケキヨ。ホーホケキヨ。ホーホケキヨ。
ホーホケキヨ。ケキヨ。ケキヨ。ケキヨ。ケキヨ。
ホーホケキヨ。

第六

第七

第二

第六 やがて花散る

一 やがて花散る。さく。さく。
さく。さく。さく。さく。
二 さく。さく。さく。さく。
さく。さく。さく。さく。
三 さく。さく。さく。さく。
さく。さく。さく。さく。
第七 花さくばる

一 花さくばるのあけがのど。
さく。さく。さく。さく。
二 さく。さく。さく。さく。
さく。さく。さく。さく。
三 さく。さく。さく。さく。
さく。さく。さく。さく。

第二 花さくばる

一 花さくばるのあけがのど。
さく。さく。さく。さく。
二 さく。さく。さく。さく。
さく。さく。さく。さく。
三 さく。さく。さく。さく。
さく。さく。さく。さく。
四 さく。さく。さく。さく。
さく。さく。さく。さく。

音 楽 年 表

明治 年号	山 梨	全 国
5(1872)		・学制頒布——小学校に「唱歌」が教科として置かれる。 だが「当分のヲ欠ク」の但し書きつき。
6(1873)		・師範学校編輯『小学読本』にラッパとスクエア・ピアノの絵が掲載される。
7(1874)	・3月 開智学校を師範講習学校と改称	・3月 伊沢修二、愛知師範学校において幼稚園教育を試み、「胡蝶」「椿」「鼠」の遊戯を指導。
8(1875)	・8月 師範講習学校を山梨師範学校と改称。	・7月18日 伊沢修二(24歳)米国留学。
9(1876)	・進藤津る県より選ばれて東京女子師範学校に入学。 ・8月 山梨師範学校附属小学校設置。 この時の教科に「唱歌」はない。	・京都市内と京都府下につづつの公立「幼稚遊戯場」と「幼稚院」開設。 ・東京女子師範学校付属幼稚園開設。
10(1877)		・11月6日 東京女子師範学校附属幼稚園において『保育唱歌』による教育がはじまる。雅楽による伴奏 『保育唱歌』“冬のまどい”等83曲。『遊戯唱歌』“風車”等12曲
11(1878)	・9月 附属女子師範学校設置	・東京女子師範学校に幼稚園保母練習科を附設。 ・4月8日付 アメリカから在米留学生監督目賀田種太郎及び伊沢修二の連名で「学校唱歌二用フベキ音楽取調ノ事業ニ着手スベキ見込書」を文部大輔田中不二底に提出。 ・5月21日 伊沢修二帰国、東京師範学校に勤務。 ・11月 京都女学校で『唱歌』という教科書を出版。伴奏楽器に筑紫箏をつかって唱歌教育をはじめる。
12(1879)	・8月から女子師範学校にだけ「唱歌」を課した。	・10月7日 伊沢修二音楽取調御用掛に任命される。 ・10月23日 文部省内に音楽取調掛設置される。
13(1880)		・大阪・鹿児島・仙台に御茶ノ水系幼稚園開設。 ・東京・大阪・和歌山に幼稚園設置 ・3月2日 米国人ルーサー・ホワイチング・メーソンが音楽取調掛に教師として来日。 ・4月 音楽取調掛に初めてピアノが備えられる。 ・4月 東京師範学校、東京女子師範学校でメーソンにより唱歌教育がはじまる。後に東京女子師範学校附属幼稚園においても唱歌教育がはじめられる。 ・4月 「唱歌」がカリキュラムの中で正科となった。 ・10月5日 初の音楽取調掛伝習生18名入学。 ・10月11日 伝習生4名入学。
14(1881)	・進藤津る東京女子師範学校を卒業し山梨師範学校教授補拜命。	・地方の師範学校からオルガン購入について取調掛へ問い合わせがあった。 ・3月5日 オルガン制作何書が出された。 ・4月 胡弓を唱歌授業に使うこととする。 ・9月 メーソン学習院へ出校開始。
15(1882)	・山梨師範学校に「音楽」の科目が入る ・12月 山梨から菅田義英が音楽取調掛に入学した。 (山梨師範学校教員、東京師範学校に在学中) 初の唱歌教員(音楽師)と思われる	・1月 文部省は取調掛に対し、国歌を選定するよう命じる。 ・4月 『唱歌掛図』初編、続編。『小学唱歌集』初編出版。 ・東京女子師範学校の卒業生は唱歌を教えるもよいことになった。 (東京師範学校は16年) ・7月13日 メーソン帰国 ・12月 師範学校取調員(府県師範学校の教員で、明治15年9月から翌年7月まで東京師範学校に在学)のうち17名が取調掛に入学した。 山梨からは菅田義英
16(1883)	・1月28日 山梨師範学校は音楽取調掛へ楽器購入依頼。 風琴1 ・10月 弾琴屈教員に石原コト就任。 (16~20年) ・7月 菅田義英助教諭主事(22年2月まで)	・2月10日 メーソンの後任に海軍省のフランツ・エッケルトが就任(管弦楽、楽典、和声を教授)。 ・3月28日 『小学唱歌集』第二編出版。 ・6月 『唱歌掛図』第二編出版。 ・7月 『音楽問答』『楽典』出版 ・6月6日 『幼稚園唱歌集』草稿29曲を文部当局に提出 ・4月 『音楽指南』出版。 ・6月 『小学唱歌集』第三編出版。
17(1884)	・進藤津る依願退職	・文部省は学齢未満の幼児の小学校入学を禁じ、幼稚園設立を奨励。

18(1885)		桜井女学校附属幼稚園保育科の設立(初の私立の保育養成機関東京)。 岡山女子師範学校附属幼稚園開設。
19(1886)	・12月19日 山梨師範学校は音楽取調掛へ楽器購入依頼。 風琴1 ・女子師範学校で幼児教育のための準備始まる。	・7月10日 音楽取調所(改称)第一回全科卒業。 ・3月31日 オッケルト解任。 ・4月1日 オランダ人G・ソープレイがピアノ教師として就任。 (21年3月31日まで) ・4月10日 小学校令を公布。教科書検定制度を確立した。23年に改正されたが、教科書の形式や内容について文部省の統制が加えられるようになった。従ってこの時以後は、音楽教科書も検定教科書が多く現われるようになった。
20(1887)	・9月 山梨師範学校附属小学校に附属幼稚科設置。	・10月5日 音楽取調掛を東京音楽学校と改称。 ・12月 『幼稚園唱歌集』発行。
21(1888)		・長野、開智小学校附属幼稚園開設(後の松本幼稚園) ・1月 東京音楽学校初代校長に伊沢修二が任命された。 ・『明治唱歌』大和田建樹 奥好義撰)発行。この年から23年までに第一集から第六集まで発行。
22(1889)		・『中等唱歌集』(東京音楽学校編)発行。
23(1890)		・教育勅語発布後、祝祭日の儀式に「君が代」が歌われるようになる。
24(1891)		・文部省は「小学校祝日儀式規程」定めた。これによって儀式では唱歌が重要な役割を負う。
25(1892)		・10月 明治政府は祝日大祭日儀式にうたうべき歌について「主として尊王愛国の志気を振起するにたるべきもの」と指示。
26(1893)	・山梨師範学校附属小学校から幼稚科は独立して附属幼稚園となる。	・3月 『小学唱歌』(伊沢修二編)出版。この年から26年9月までに6冊を出版。巻の一はほとんど伊沢修二の作詞または作曲であり、多くの特色を持っている。その一つは多方面からの日本的要素をとり入れてあること。「かり」「うさぎ」「からす」「手鞠歌」等。
27(1894)		・8月 祝日大祭日唱歌として「君が代」「勅語奉答」「1月1日」「元始祭」「紀元節」「神嘗祭」「天長節」「新嘗祭」の8曲が官報付録に発表された。
30(1897)	・進藤津の復職(山梨師範学校附属幼稚園主任保育)。	・1894~1895 日清戦争
31(1898)	・3月 山梨師範学校附属幼稚園が廃止となる。 ・4月10日 私立進徳幼稚園 開設。 進藤津の園長 進徳幼稚園規則によると、保育科目ハ修身、説話、庶物、手技、唱歌、遊戯トス。毎週の保育時間に唱歌3時間、遊戯6時間。	
33(1900)		・『幼年唱歌』第一集発表。以後第十集まで発表した。納所弁次郎・田村虎蔵共編「きんたろう」「ももたろう」「おつきさま」等。
34(1901)		・7月 『幼稚園唱歌』滝廉太郎編著発行「鳩ぼつぽ」「お正月」など20曲。
36(1903)		・『少年唱歌』発表。以後八集まで発行。この唱歌と『幼年唱歌』には、言文一致唱歌が多数載せられている。
37(1904)		・1904~1905 日露戦争
38(1905)		・10月から『尋常小学唱歌』全12冊刊行。佐々木吉三郎・納所弁次郎・田村虎蔵共編「一寸帽子」「大こくさま」等。
39(1906)	・谷村の長安寺内に 私立青藍幼稚園 開設。	
43(1910)	・9月 『新唱歌』山梨師範学校教諭 渡辺義丸作詞 小林禮作曲 甲府 開進堂発行(教科適用)20曲 魚釣り 雪合戦 田植え 富士山等	・7月 『尋常小学読本唱歌』文部省の名で発行した最初の小学校唱歌教科書。編集委員は東京音楽学校教官。全27曲中「かぞへ歌」以外は全部我が国人の新作曲である。「からす つき こうま かえるとくも とけいのうた ふじの山 われは海の子 春が来た 虫のこえ」等。
44(1911)		・5月 『尋常小学唱歌』第一学年発行。全部邦人の新曲「鳩 おきやがりこぼし ひよこ かたつむり 牛若丸 夕立 桃太郎 朝顔」等。

参考資料; 洋楽事始・音楽教育成立への軌跡・唱歌教育成立過程の研究・山梨教育百年史・日本唱歌全集・日本唱歌集
山梨師範学校沿革史